2025年度（2025年1月1日～2025年12月31日） 事業報告書

特定非営利活動法人　アジア教育友好協会

アジア教育友好協会（以下、AEFA）は、アジアの山岳少数民族の子どもたちの教育支援と日本をつなぐ取組みを、各国のパートナーNGOと共に進めています。

活動21年目となる2025年度12月末時点の「学校建設」（全て公立校）は累計345校（ベトナム189校、ラオス121校、タイ15校、スリランカ16校、中国2校、ネパール2校）となりました（建設中を含む）。また、「学校図書館」の建設は、累計41館(ベトナム33館・ラオス8館)となりました（建設中を含む）。こうした学校や図書館建設にご支援頂いた方々が現地の学校を訪問して執り行う開校式・開館式をベトナムにおいて3月と12月に開催し、あわせてAEFAによる候補校の訪問視察も行いました。

図書館の開館後、子どもたちに読書の習慣を根付かせるために現地のパートナーNGOの支援によって行われる1年間の読書プログラムやコンテスト等の様々な活動は、今年も学校ごとにテーマを決め、子どもたちの主体性や創造性を引き出す多様な活動に取り組むことができました。

昨年度の事業として山形県において開催した図書館をテーマにしたワークショップと現地のパートナーNGOの学校訪問のご縁が続き、今年度は、山形の小中学校とベトナムの小学校を繋いで、オンラインを中心に、子どもたちが交流を重ねました。12月末には日本の先生たちがベトナムの小学校を訪問しました。日本・山形・ベトナムの文化をお互いに紹介し合ったほか、子どもたちが手作りした日本紹介かるたや、交流作品を届けました。交流は、人と出会い、新しい世界や価値観との出会うきっかけとなります。日越双方の先生たちにとって「自分たちのあたりまえは、あたりまえではない」ことについて実感をもって発見することととなり、自分たちの方法とは異なる優れた方法やその背景にある価値観を見出す機会ともなりました。ベトナムの先生からは、日本の先生の子どもたちへの距離感や関わり方と、それに対する子どもたちの変化の様子を目の当たりにし、日本の先生からもっと学びたいとの声もあがりました。子どもたちも「次はいつ交流できますか？すぐにでもやりたい」「今度は、お正月について紹介したい。相手のお正月についても知りたい」と意欲的な反応を得ることができました。開校式や開館式と同様、国境を越えて「交流」する意義をあらためて実感することができました。今後も、AEFAの活動の理念に沿った交流を進めていきます。なお、この取り組みは、一般財団法人MRAハウスの助成を事業費の一部に充てています。

7月には、「第16回AEFAフォーラム」（独立行政法人国際協力機構（JICA）、JICA地球ひろば後援）を開催しました。昨年に続き、AEFA会員のほか、告知やSNSで初めてAEFAを知った方、小さなお子さんからシニアまで幅広い年齢層の60人の方々が集いました。まず、アジアにおけるAEFAの活動現場の様子と山岳少数民族の子どもたちが抱える課題（都市部との経済格差、言葉をめぐる困難など）について、共有しました。次に、参加者の皆さんがグループに分かれて、実際に現地の子どもたちにAEFAとパートナーNGOが提供している「教育支援プログラム」を体験しました。それぞれのグループワークは大変活発な活動となり、それぞれの参加者の豊かな発想や多様な意見にお互いに耳を傾け、それぞれに多くの気付きを得ることができる時間となりました。日本からの寄付を活かした現地の教育プログラムを実際に体験し、プログラムの意義を深く実感することができたという声を多数いただきました。

11月には、ベトナム戦争時に使用された枯葉剤の影響で結合双生児として生まれ、その後、分離手術を受けたグエン・ドクさんを招き、映画「ドクちゃん　―フジとサクラにつなぐ愛―」を鑑賞し、ドクさんと対話する会を、AEFAの学校建設に長年にわたりご協力いただいてきた「アジアの子供たちに学校をつくる議員の会」との共催で開催しました。AEFA会員やベトナムの学校建設にご協力いただいた方々を中心に約60名にご参加いただきました。2025年はベトナム戦争終結50年でもありました。戦争による深刻な影響を受けた当事者であるドクさんは、平和を願う一人の市民として、戦争がもたらすことの深刻さを伝えましたが、それだけではなく、先行きの不透明な現代社会を生きる一人として、二人の子どもを持つ父親として、そして、豊かな人間性を持つ魅力ある一人の人間として、懸命に生きる等身大の姿を見ることもできました。これも、AEFAが進める意義ある交流です。

独立行政法人国際交流基金による特定寄附金制度に、AEFAが進める「ベトナム少数民族の子どもと日本の子ども　小学校・図書館建設と、読書活動を通じた交流事業」（ドイホン分校・ティップダオ図書館・交流活動）が受理されました。これにより、当該プロジェクトへのご寄附は、いわゆる寄付金に関する税額控除の対象とすることができるようになりました。

「マンスリーサポーター」は毎月定額のご寄付により、AEFAの様々な活動を支えていただくものですが、おかげさまで、徐々に支援の輪も広がってきています。こうしたご寄付は、主に、変化に直面する現地の課題に応じた新たなプログラムの開発などに活用していきます。

2024年4月より、引き続き、経理業務の一部を「わたす研究所」（秋田県山本郡藤里町）に委託しています。会報の制作とホームページの更新、フォーラムの開催は、広報プロボノの協力をいただいています。業務執行と経理に関するクロスチェックによる透明性の確保ば

かりでなく、活動の輪と市民社会の参加をさらに拡げるためにも、今後も外部との連携と協働を進めて参ります。

1. 事業の概要及び成果

＜建設事業(海外事業)＞

2025年度学校建設の実績は、ベトナム(3校)・スリランカ(1校) 合計4校(表1参照)となりました(建設中を含む)。また、3つの図書館建設を含む、教育支援プロジェクトについては、表2のとおりです。

ご支援頂いた方々が現地を訪問して子どもたち・先生たち・地域の皆さんと交流を深める開校式・開館式は、ベトナムの小学校(チュクチョン分校)と図書館3館(ティエンタン小学校・ドイホン分校・アムヒウ小学校)で行いました。

(表1)2025年度建設校一覧

	国名	地域	学校名	支援者(敬称略)
1	ベトナム	タインホア省	フアプー分校 (Hua Pu)	一般寄附
2	ベトナム	タインホア省	サマン分校 (Xa Mang)	一般社団法人ゼブラ社会貢献支援協会(ZESCO)
3	ベトナム	バクニン省 (旧バクザン省)	ドイホン分校 (Doi Hong)	株式会社カナオカ
4	スリランカ	南部州	スリロハナ小中学校 (Sri Rohana)	エルセラーン1%クラブ

(表2)2025 年度教育支援プロジェクト一覧

	教育支援プロジェクト	**支援者(敬称略)**
ベトナム		
1	レインボーライブラリー (アムヒウ小学校)	特定非営利活動法人 Shared Smile Japan
2	レインボーライブラリー (ルンニエム小学校)	エルセラーン1%クラブ
3	レインボーライブラリー (ルォンゴアイ小学校)	エルセラーン1%クラブ
4	Book Worm 本の虫コンテスト	一般寄附
5	Friendship Circle 山形の小中学校との交流	一般財団法人 MRA ハウス 他一般寄附

各国の状況および取組みについては以下のとおりです。

ベトナム

2025年7月に地方政府の再編が行われ、プロジェクトの行政側パートナーとなる地方政府が従来の三層から二層制となりました。従来の行政側パートナーであった郡（district）が消滅し、より広域を担当する社（commune）となったことで、人事異動に伴う担当者変更による影響もありましたが、プロジェクト許認可は8～9か月で取得することが出来ました。

「フアプー分校」と「サマン分校」は、2023年秋にAEFAが現地視察したタインホア省山岳地域の学校です。「フアプー分校」は建設が進んでいますが、「サマン分校」は2025年秋の台風による土砂崩れの被害を受け、村の移転が決まりました。このため、建設の着手は2026年3月まで延期されます。気候変動などの影響によって、2025年も、ベトナム各地で浸水や地すべりなどの大規模な自然災害が発生しました。バクザン省(現・バクニン省)ドイホン分校も、台風による浸水被害を受けて着工が遅れましたが、建設を進めているところです。

言語の困難を抱える少数民族の児童が多い地域の本校又は分校で行われる図書館建設と読書習慣啓もう活動は、今年も3館を支援することが出来ました。学校ごとにテーマをもち、子どもたちの主体性と創造力を引き出す読書活動を行い、オンラインを活用して、子どもたちとご支援頂いた方との交流を行いました。2024年度に山形で実施した図書館ワークショップと山形の小学校図書館を見学して得た学びを活かして、子どもたちが図書委員に任命された学校もありました。

これまで積み重ねてきた図書館と読書活動のフォローアップとして、子どもたちが本を読み、その感想を書き、動画を作り、本の内容のロールプレイなどの作品を募集して「Book Worm(本の虫)」コンテストを実施しました。子どもたちの読書への興味の持続と深まりを意図したもので、子どもたちの作品制作と参加を先生たちが応援しました。「AEFA賞」を設置し、受賞した児童の学校に図書をプレゼントしました。

3月には、バクザン省(現・バクニン省)の図書館2館「ティエンタン小学校・ドイホン分校」の開館式と、イエンバイ省(現・ラオカイ省)「チュクチョン分校」の開校式を、ご支援頂いた方々も参加して実施しました。

併せて、バクザン省において2016年にご支援いただいた学校（リウガン分校）の卒業生との集いを開催し、大学生となった卒業生3名と、支援者の方が直接交流することができました。ご支援によって新しい学校が建設されたことがきっかけとなり、この学校の教育は充実し、その後、大学への進学率が高まったとのこと。当時小学生だった子たちが、現在は自分の夢を描き実

現するために意欲的に学んでいることを実感することができました。

3月にはイエンバイ省、12月にはトゥエンクアン省を訪れ、今後の支援の対象となる候補校をAEFAが視察しました。山岳少数民族の子どもたちが学び、現時点では、教育環境は十分に整ってはいませんが、先生たちの意欲的な教育活動が進められている現場の実態を見ることができました。それぞれの学校の状況を踏まえ、この中から、2026年度以降における学校建設・図書館建設プロジェクトを選んでいくことを計画しています。

ベトナムにおける現地パートナーNGOであるChildren School Development(以下、CSD)の上部団体であるベトナム科学技術連合(VUSTA)の幹部が来日し、AEFA事務所を訪れました。日越双方の現状を共有し、お互いの理解を深め、今後のプロジェクトの方向性について意見交換することができました。

ラオス

本年度は、プロジェクトに関する送金は行わず、2026年の早い段階に送金することとしました。現地では、2024年に着手した教員寮と、図書館および水プロジェクト(井戸・浄水器)の建設を丁寧に進めました。引き続き、経済危機の影響で、建設工事の人手の確保が難しく、プロジェクトの進捗は以前よりも時間がかかるようになっています。また、深刻なインフレによって働くために学校に来られなくなる高校生・先生たちがいるなど学校現場にも厳しい影響が及んでいます。こうした現状を踏まえ、村や学校の先生たちの生活支援にも直結する牛銀行(雌牛を育て、生まれた子牛を売って現金収入とする)や、栄養の改善につながる養魚池を学校に設営しました。

スリランカ

南部州ティッサマハラーマにおける学校建設を、スリランカにおけるAEFA事業代表であるダヤシリ氏をはじめ、コロンボ・ロータリークラブの皆さんの協力で行いました。教室が不足している学校に2教室の新校舎を整備し、教育を充実させます。ご支援頂いた方々が訪問して行う開校式は、2026年2月に予定しています。

＜交流事業(国内・国内外)＞

2024年度事業で開催したベトナムのパートナーNGOであるCSDの招聘と、山形県図書館ワークショップの開催、学校訪問から得た学びと、こうしたプロセスによって築いた協力関係は、教育支援プロジェクトの進化に繋がっています。また、こうしたご縁によって、山形市南小学

校・寒河江市陵南中学校とベトナムのクアンチュン小学校・ニンソン小学校がそれぞれ交流するプロジェクトを行いました（Friendship Circle）。

オンライン交流を重ねると共に、山形から2名の先生たちが、ベトナムの交流校を訪問、日本の学校からの交流作品を届けしました。日本の小学校は「自分たちのことを知って欲しい」「日本を紹介したい」と、ベトナム語で自己紹介カードや日本の昔話絵本を手作りしました。中学校の取り組みは英語の授業の中で行われたもので、日本を紹介する「英語かるた」を生徒たちが作りました。ベトナムの小学校では、実際に英語かるたを使って楽しく遊びながら日本について学ぶことができました。日本の中学生にとっては、英語を母国語としていないベトナム人と英語を使ってコミュニケーションすることによって、「英語は教科書で勉強するものでなく、コミュニケーションで実際に役立つもの」という実感を得ることができる交流となりました。また、ベトナムを訪問した日本の先生による「実演（デモンストレーション）授業」では、日頃は落ち着きが無くて授業に参加しづらい子どもが、テンポよい授業展開に引き込まれ、ご両親からも良い機会を得ることができたと先生を通してフィードバックが寄せられました。ベトナムの先生たちにとっても、魅力的で学ぶ点が多かったとのことで、今後の継続が期待されています。さらには、地域の方々も参加して、日越文化交流も行いました。日本からは浴衣着付け体験と山形の代表的な民謡「花笠音頭」、ベトナムからは北部の伝統芸能でユネスコ世界遺産でもあるクアンホー民謡と、タイー民族のテン民謡を体験しました。子どもたちにとっても、自分の民族の文化を再発見する機会になりました。

子どもたちの交流を通して、日越双方の先生たちにとっても自分たちの当り前が当たり前でないことを実感し、価値観がゆすぶられる刺激的な経験でした。AEFAの交流事業は、次世代を担う子どもたちを中心にかかわる人すべてが、新たな世界と価値観に出会うことで“自分”が変わる体験、 自分の根幹となる部分を育てる取り組みです。今後も、この取り組みを継続するとともに、参加を拡げて参ります。

より多くの方がAEFAを知り、活動に参加いただける機会の一つとして、「第16回AEFAフォーラム」を、7月5日（日）、東京のJICA地球ひろば国際会議場にて約60名の参加を得て開催しました。アジアにおけるAEFAの活動現場の最新の現状、都市部と全く異なる生活の様子や広がる経済格差を図表や写真を用いてお伝えし、特に今、山岳少数民族の子どもたちが抱える課題を共有しました。AEFAは、子どもたちの学びに寄与するために学校や図書館の建設だけでなく、変化する現状に併せて今、その地域で必要とされる「教育支援プロジェクト」を支援しています。現在進行形で子どもたちが取り組んでいる、ラオス リトルシェフ（保健衛生と栄養をテーマにした教育プログラム）と、ベトナム レインボーライブラリーの読書活動を、フォーラム参加者の皆さんがグループに分かれて、体験しました。「教育支援プロジェクト」は子ども主体

の活動が中心のため、なかなかわかりづらいと言われますが、実際に体験することで想像すること、感じること、グループで協力し合って発表することの楽しさ、参加者同士の多様な視点と価値観の違いに気づくなど、活動の意義を含めてご理解いただくことができたと思います。今後も、フォーラムは対面でAEFAの活動を知って頂ける交流の場として、継続していきます。

3月には、ご支援いただいているエルセラーン1%クラブにおいて、「スプリングフェスティバル」が開かれ、理事長の亀井がベトナムの図書館開館式と国際ボランティア報告を行いました。10月には「第3回平和サミット」において、理事の佐川が参加しました。ベトナムの建設支援校卒業生が大学進学し、夢に向かって学んでいる姿を動画で報告したほか、国際協力支援の心構えについてお話しました。

昭和女子大附属昭和小学校、長野市大岡小学校、横浜市二俣川小学校(人権教室)、さいたま市植水小学校(オンラインで開催)で、専務理事の金子、理事の田中が出前授業を行いました。写真・動画・お話だけでなく、ラオスの村で使われている生活雑貨や教科書・本なども活用して、AEFAが活動しているアジアの学校の様子、子どもたちの暮らしを紹介して理解を深めました。植水小学校では、6年生が調べ学習をしているSDGsを、ベトナムから日本の大学で学ぶ留学生とオンラインで繋いでベトナムの課題についても学びました。身近な取り組みが大切だということ、自分たちはどのようなことを意識して行動していけばいいのか一緒に考える時間となりました。日本の学校で実施してきた「出前授業」は累計772回となりました。

11月には、平塚保護司会・更生保護女性会の合同研修会において、「アジアの山岳少数民族が直面する課題と教育の意義　−実践から見えてくる社会課題解決の実相−」と題して、亀井が講演しました。地域社会を支えるボランティアを対象にした研修会でしたが、教育の意義や社会課題解決に取り組む重要性を再確認する機会とすることができました。

12月には、杉並区西荻地域区民センター主催で、会長の谷川による講演会を実施しました。杉並区民を中心に40名が参加し、「杉並の小学校へも出前授業に来て欲しい」「地元にこういう活動をしている人がいるとは知らなかった。自分も何かの形で手伝いたい」と申し出をいただきました。

福島県石川郡古殿町立古殿中学校PTA教育講演会で、同校卒業生でもある理事の佐川が「これからの人生の暦をつくっていくきみたちへ」として1年生から3年生120名、保護者50名、職員18名にお話ししました。平和で教育を受けられる喜びやアジアの仲間としてのラオスやベトナムの現状や山岳地帯の生活・暮らしなどを知ることで理解を深める話をしまし

た。そして世界、アジアにも目をむけて自分の人生を社会さらには人の為になる人生を歩んでほしい、そのためには多くの人と出会い、本を読みたくさんの言葉をみつけその中から生きる力になる言葉を集めて下さいと中学生へメッセージをおくりました。

＜広報活動＞

会報39号と40号を発行、ホームページを更新、ソーシャルメディア(FacebookおよびInstagram)を通じて発信しました。オンラインの集い「会報を読む会」は、2025年も原則として偶数月の第三水曜日夜に継続して開催しました。会員、フォーラム参加者などAEFAの活動やアジアに興味関心をもつ方が、AEFAが活動する地域とプロジェクトへの理解を深め、活動への参加のかたちを一緒に考える交流の場としてこれからも実施します。

2. 収支および資産、会員の概況

＜収支および資産の概況（単位：千円） 千円未満切捨＞

当期収入額	46,551	＝ 一般寄付 45,315+会員会費 770+補助金 400+その他 66
当期支出額	47,373	＝ 建設事業費 39,807+交流事業費 2,398+管理費 5,168
当期事業収支	△822	
期末正味資産	46,786	

当期収入額には、来期以降のプロジェクト費用となる、建設積立金を含みます。

＜会員の概況＞

会員数：個人会員 99 名（うち正会員 40 名）、法人会員 5 社（うち正会員 1 社）

会費収入は昨年比355千円減の770千円。

3.事業支出内訳

事業支出の内訳は以下のとおりです。

（1） 特定非営利活動に係る事業

事業名	事　業　内　容	実　施 日　時	実　施 場　所	従事者 人　数	受益対象者の範囲及び人 数	支出額 （単位：千円）
建設事業	＜学校建設＞ ベトナム・スリランカの学校および図書館建設（読書啓もう活動を含む） ＜教育支援プロジェクト＞ ベトナム Friendship Circle 交流	2025.1.1 ～ 12.31	ベトナム・スリランカ 4 校・3 館 ベトナム	4 名	ベトナム児童及び地域住民：合計約 1,500 名 スリランカ教員、生徒及び地域住民： 合計約 1,000 名 ベトナム 2 校児童及び地域住民：合計約 700 名	39,807
交流事業	① 日本国内出前授業： 計 4 回(累計 772 回) ② 外部講演会 3 回 ③ 第 16 回 AEFA フォーラム	2025.1.1 ～ 12.31	①日本 4 校 ②神奈川県 杉並区 福島県 ③東京	4 名	①各回: 約 35 名～80 名 合計：約 300 名 ② 各回 40～180 名合計：約 300 名 ③ 60 名	2,398

（2） その他の事業

特になし